

★★★★★★★ NPO イカス メールマガジン ★★★★★★★★★★★★★★★

2024年10月25日発行

活かす通信

2024年11月（第208号）

<http://npo-icas.com/>

★★

巻頭言 深月ユリア（フリージャーナリスト）

「石破総理の革命的大改革とは」

★★

今月から巻頭ページを担当させていただきますジャーナリストの深月ユリアと申します。慶応義塾大学法学部政治学科卒業。FRIDAY、FLASHなどで主に政治・時事問題の記事を執筆し、裏金問題などをスクープ。顧問を石破茂総理が務める「命を守るシェルター協会」代表。女優、モデル、ベリーダンサーとしても活動中です。ご購入よろしくお願いたします。

石破政権、波乱の船出

石破新政権が誕生は所信表明演説の冒頭で野党の「うそつき！」「裏金！」「ブレブレ」など下品な怒号が飛び交う中で、首相の声が聞こえないほどのドタバタなスタートとなった。

そして、経済面では、日経株価が一時2000円超も暴落した。

市場がアベノミクスの継続の立場で「戦略的な財政出動」と「今、利上げはあほ」と主張してきた高市早苗氏が総理になることを期待していたからだ。石破氏は総理就任には高市氏とは真逆で利上げ肯定、また金融所得課税を主張していた。総理就任後は、利上げは日銀の方針に任せ、金融所得課税に関しては言及がなくなり、差し当たりは岸田路線を維持することになり市場の警戒は弱まったようだ。

「高市早苗総理への期待」「石破総理のぶれぶれイメージ」はいずれもメディアの影響が大きいですが、中には取材不足であったり情報源が怪しい記事も見られた。たとえば、10月4日の朝日新聞の記事で石破総理は次期衆議院選挙において「裏金議員を原則公認する」という記事が紙面トップに上がり、他メディアも後追いするように「早くも党内情勢に心配りしている。選挙のためだけの顔のすげ替え内閣」という論調が目立ったのだ。しかし、石破総理は記者会見で朝日新聞の報道のような発言をしていなかった。官邸内通者からの証言の可能性も否定できないが、朝日新聞は情報源を記載していなく、一部の政治記者からは「誤報」という情報もある。石破総理曰く、「10月4日の時点では何

も決まっていなかった」という。

筆者は石破氏に何度か取材したことがあるが、同氏は実質的に米国の属国である日本を「独立国にしたい」「日米関係をより対等な関係性に変えたい」という志、「国は国民を守らなければならない」という強い理念を持っていた。しかし、石破総理が目指す「日米地位条約の改定」「アジア版 NATO」「在日米軍基地の日本政府による管理権」の政策が一朝一夕では出来ないのは言うまでもなく、まだ国民の目に見える形で着手していないことについて「ぶれぶれ」と結論付けるのは拙速ではないか。

「バイデン大統領との最初の会談で日米地位協定についての話が出なかった」と批判した記事もあったが、次の大統領が決まる直前に重大事を打ち明けるのは愚策でしかない。

米大統領選は現状、ドナルド・トランプ氏が就任する可能性、カマラ・ハリス氏が就任する可能性いずれも五分五分だといわれる。

ハリス氏が就任した場合はバイデン路線が引き継がれるが、トランプ氏は日本の防衛予算拡大、「思いやり予算」といわれる在日米軍駐留経費の日本側の負担増額を求め、「お金を出さないなら米軍は去る」と言いかねないだろう。

そして、米国第一主義を掲げ、ウクライナ戦争に関して「そんな金あるなら、不法移民が来ないようにメキシコにもっと大きな壁をつくるべき」とウクライナ支援を打ち止め、ウクライナ戦争を終わらせるが、そうなると次の過大は荒地となったウクライナをいかに復興させるかだ。トランプは「日本はウクライナに武器支援しなかったじゃないか。せめて復興には金を出せ」と言いかねないだろう。この際、戦略的な外交を行わなければ、日本の国民の税金がトランプに吸いとられてしまう。手のうちは見せないに越したことはない。

安倍政権政治の終幕

さて、石破総理が短期間で実施した政策で注目すべきは、何より「安倍一強」政治の終幕だろう。

石破総理は次期衆議院選挙において旧安倍派の下村博文氏、萩生田光一氏、そして、安倍元首相他界後に旧安倍派を実質的にまとめて「影の総理」といわれてきた森喜郎元首相の側近である高木毅氏らの裏金議員を非公認とした。安倍路線を受け継ぐ高市早苗氏、小林鷹之氏をわざと閑職に誘い、自ら断らせる、という手法にでた。そして、30年ぶりに「自民党最高顧問」という聞こえは良いが権力を持たない役職を設置し、石破氏を嫌うが為に政策は違うが総裁

選で高市氏を支持した麻生太郎氏を付けた。更に、自衛隊内部の不正や防衛産業への天下りを正す為に防衛大臣経験者を4名も閣僚にした。

実にしたたかな人事だといえるが、就任して数日で自民党内の大革命ともいうべき施策を実行したのである。

今回の衆院解散総選挙は石破総理が革命的な大改革を続行できるか、国民からの審判の意味を為す。結果によっては自民党が石破・岸田勢力と旧安倍派勢力とに分裂する可能性も否めないだろう。

一方、立憲民主党の野田佳彦代表は、たとえ今回の選挙で自民党が過半数割れたとしても立憲民主党が「比較第一党を目指す」と主張している。つまり、現段階では政権は奪わないということだ。野田氏の裏には小沢一郎氏がいる。筆者は一時期「小沢一郎政治塾」にいたが、小沢氏は現在の野党が分散しすぎて、たとえ政権交代してもかつての民主党政権のように長続きはしない、と考えているように思える。

かつて、小沢氏が民主党首だった際、2007年の参議院選挙で第一次安倍政権を過半数割れに追い込んだが、その後の福田康夫・麻生太郎内閣はいずれも一年しか持たなかった。しかし、2009年に15年ぶりに民主党の鳩山由紀夫政権が誕生しても、社民党が連立離脱し、政権は未熟なものとなり、僅か9か月で鳩山内閣は総辞職したのだ。

小沢氏はかねてより「オリーブの木」と呼ばれる野党連立構想を持っていて、野田氏も「世襲政治の廃止」「野党共闘による政権交替」という大目標を掲げてきた。両氏の野心は強く、今は時期尚早でも、今回の衆議院選挙で躍進し、次回の参院選までに分裂した野党を連立させようと目論んでいる可能性はあるだろう。

いずれにしても、今回の衆議院選挙は日本の未来の方向性も決める極めて重大な選挙となるだろう。

ユリア記

★★

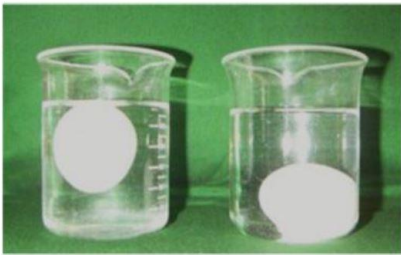
勝池レポート アジア資産運用アドバイザー 勝池和夫

「新鮮な卵は少ない」

★★

投資の世界に、「卵を一つのカゴに盛るな」という格言があります。卵を一つのカゴに盛ると落としたりしたときに全部割れてしまうので、そのリスクを避けるために複数のカゴに分けて盛りなさいという分散投資のアドバイスですね。しかし、これは新鮮な卵が容易に手に入る時代の話であって、これから始まりそうな新鮮な卵（有望な投資先）が見つかりにくい時代には合わない格言だと思います。もう沢山のカゴは要りません。

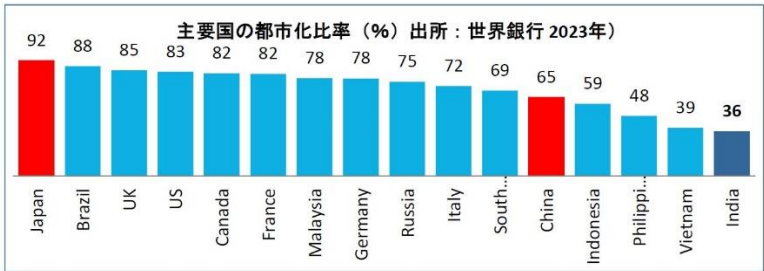
私なら、「卵はカゴに盛る前に慎重に選びなさい」と言います。その新鮮な卵の選び方の一つとして、下の写真のように卵を食塩水に浮かべてみることもできます。卵は鮮度が落ちると、卵の中の空気の部分が大きくなり水に浮くようになるからです。



では投資国の新鮮度（有望度）はどうして判断したら良いのでしょうか？その目安になるのが下表にある主要国の都市化比率です。この比率が 60%を超えると投資対象国の新鮮度は落ちてくるようです。卵であれば水に浮く状態に近づきます。

この説に従いますと、G7 の先進国はもとより、BRICS 各国でも、ASEAN の主要国でも、ほとんどの国の投資先としての鮮度は落ちています。一方で、ご覧のように右端のインドの比率は 36%と圧倒的に低く、つまり同国は世界に残された数少ない新鮮な卵（長期的な経済成長が期待できる国）と考えられます。

皆さんの新 NISA のカゴに、このプリプリとした卵はいかがですか？



★★

ムッシュ望月の 11 月の相場展望

★★

11 月の相場展開を予想するのが難しい局面である。日米ともに大きなイベントを控えているからだ。10 月 27 日には低支持率に悩む石破政権に対する評価が下される衆議院選挙、11 月 5 日には大接戦が予想されて米大統領選挙の結果が今後の政治経済に大きな影響を及ぼす。この結果は今後の金利政策にも影響し、結果的には為替にも影響を及ぼす。9 月には FRB は大方の予想に反して 0.5% 野引き下げをし、予防的な措置として市場に評価を求めた。その後の米国経済は急激に悪化する様子もなく、FRB の政策は評価されている。その際、2026 年に 3% 程度までの金利低下、11 月、12 月に経済状況を鑑み各 0.25% の金利引き下げを想定するシナリオを描いてみた。その間に日銀は 2% まで金利を引き上げるのがベスト心リオになる。このような大前提の中、ドル円は 7 月 3 日の 161.952 円から 9 月 16 日には 139.581 円まで大きく揺れた。振れ幅は 22.14 円だった。これをテクニカル的に解釈すると、リバウンドは振れ幅 22.14 円の半値戻し 150.657 円が予想される。10 月 17 日には 150.325 円を付け半値戻しは達成された。相場格言には「半値戻しは全値戻し」があり、更なる円安に振れるのかは予断を許せない。一目均衡表でも、厚い雲を上突き抜けるタイミングが近づいている。一方一目均衡表では先行スパン 1 と先行スパン 2 が交錯する変化日が 11 月 6 日にあり、米国大統領選挙の結果で為替が大きく動くことを示唆している。為替動向から読める世界では、トランプ共和党候補が優先と言える。トランプ氏は強いドルを政策の中で位置づけているからである。ハリス副大統領が勝利となると為替は一転してドル安円高に振れる可能性は否定出来ない。又もう少し長いタームで見ると題 2026 年までの FOMC のスケジュール化（3% 目標）はされているものの、景気の変動は当然あり、市場はその度に一喜一憂させられる。現在の民主党と共和党の対立が、南北戦争時を想起させるような米国映画の「シビルウォー」が大ヒットし、トランプ氏に対する射撃未遂も 3 回もあり、今後も予期せぬ事態は避けられないかもしれない。

日経平均株価は、現在高値更新中のダウとの連動性は低く、ナスダックの連動性が高いことから高値更新が難しい状態にある。日本株の主役は、ディスコ、東京エレクトロン、レーザーテック等だが、米 IT 主役のエヌビディアのようなカリスマ性には欠けている。日本での期待は、米投資の神様・バフェットが円建債 2818 億円発行したことで、再度日本株投資に踏み切るのではないかと期待が高まり、三菱 UFJ を中心とした金融株に上昇期待が高まっている。経済状況を占う街角景気は 4 ヶ月ぶりに悪化に転じた。気温の高い日が続く秋物の売上げが悪く、円安による物価高が消費の節約志向を高めている。消費関連の雄であ

るファーストリテイリングや外食産業のサイゼリヤは中国等のアジア諸国で売上げを伸ばしている。石破政権の低支持率の中、マスコミの多数は与党の過半数割れで一致している。これが一転して過半数維持となると、相場は一転して買い戻しの動きに転じるという読み、「人の行く裏に道あり花の山」にかかる投資家も入ることも事実である
純記。

★★

24年11月以降のिकास倶楽部スケジュール

★★

- 11月06日（水）：15：00～花咲投資クラブ 会場（A）
- 11月07日（木）：13：30～日比谷会投資クラブ 会場（A）
- 11月12日（火）：16：00～ムッシュのサロン・ド・株式 会場（B）
- 11月16日（土）：15：00～スペリオール投資クラブ 会場（B）
- 11月26日（火）：18：30～ムッシュのサロン・ド・株式 会場（B）
- 11月28日（木）：15：00～東京3Eクラブ 会場（A）

★िकासの参加費は2025年から3000円→3500円

投資クラブは2025年より年42000円となります。

会場（A）新宿御苑前中交公ビル604

（B）ニュー新橋ビル3F昭和カフェ

第29回カラオケ会：24年11月15日（金）：18：00～21：00

参加費は7500円、ノンアルコール7000円、倶楽部エル

11月24日（日）14時～16時、六本木ヒルズクラブ51階

講師：資産運用コンサル川口幸子 with ムッシュ望月「ユダヤ富裕層から学ぶお金のルールと投資」：20人満席、9000円

第43回：िकास冬の交流会：2024年12月5日（木）午後6時～午後9時

外国特派員協会

第一部：講師：澁澤久栄 澁澤栄一氏に学ぶ

「澁澤栄一が未来を先取りした信念と覚悟」

第二部：歌：濱田レイ（シャンソン歌手）：シャンソンコンクール優勝

参加費：13000円、事前振り込み：12000円、60人程度

会費振込先：三菱UFJ銀行、新宿中央支店、普通：5313550

2024年12月16日福原健一（元NHKアナ）が語る「ドジャーズと日本の絆」
六本木ヒルズ 51階、参加費 5000円

2025年1月25日（土）9時45分「三宅あみの大江戸散歩」日本橋七福神
参加費 3000円＋昼食代（実費）

新事務所：中央区日本橋室町1-2-6 日本橋大栄ビル7階

info@npo-icas.com <http://www.npo-icas.com>

★★